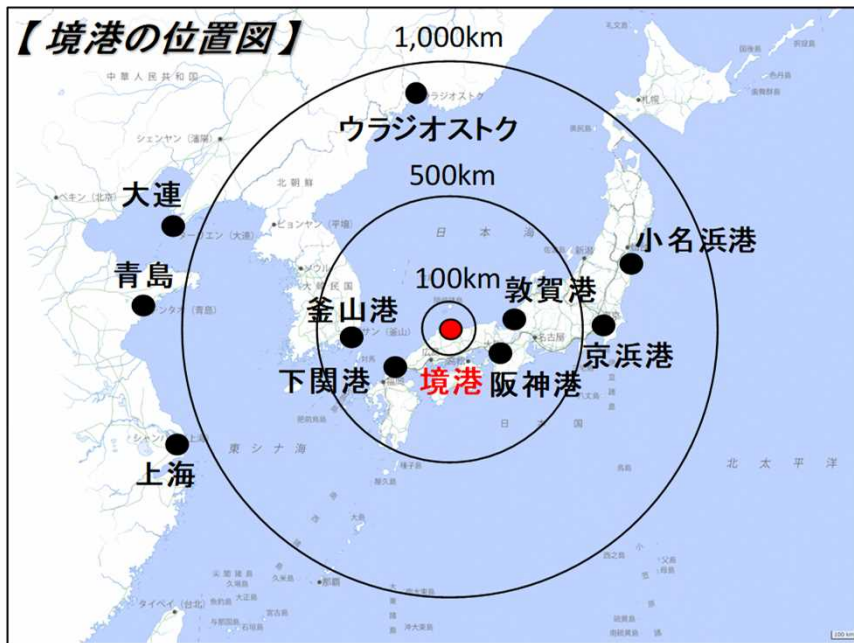
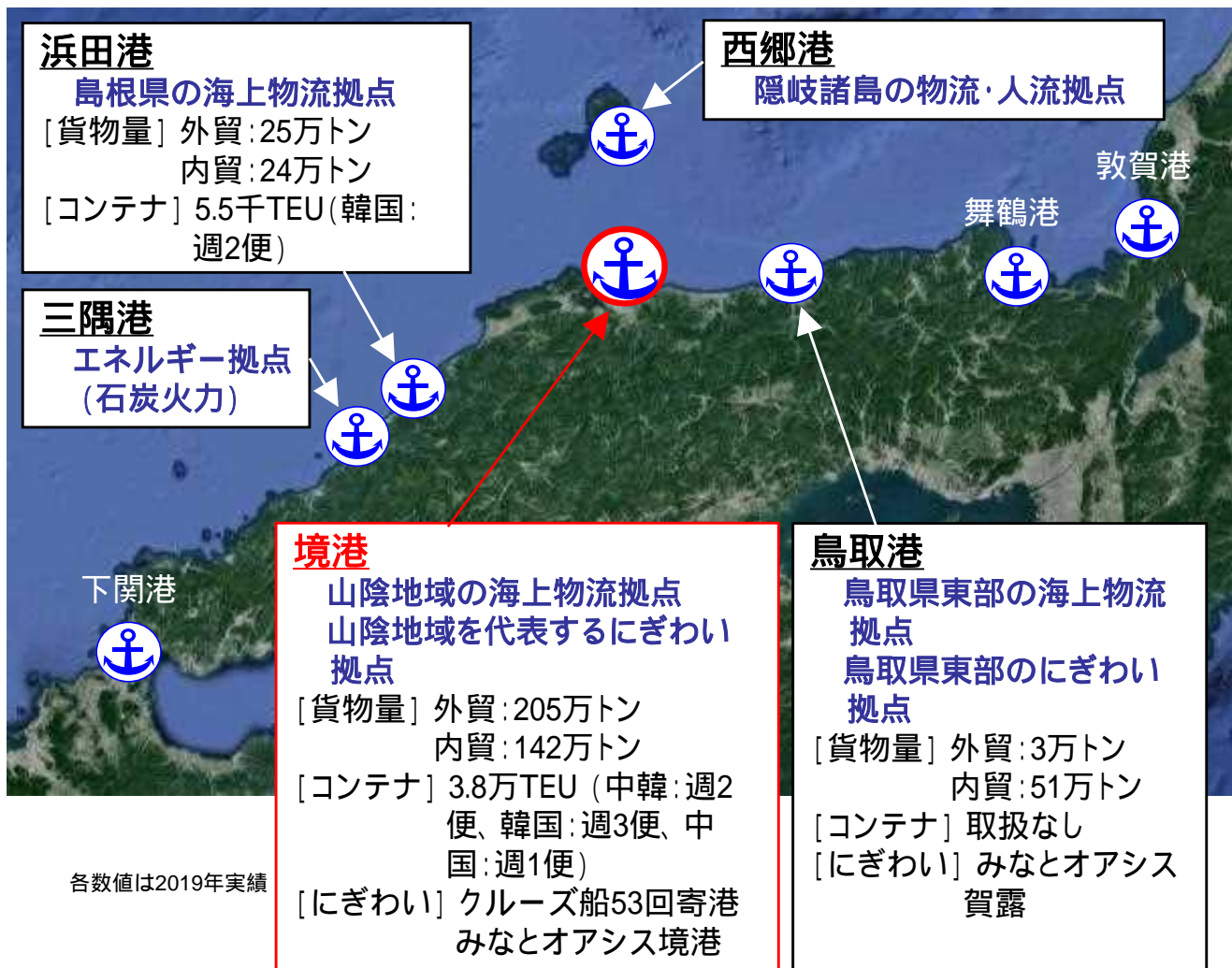


鳥取県と島根県の県境に位置し、中国・韓国・ロシアに近接している優位性を活かし、北東アジアのゲートウェイとして山陰地域の海上物流拠点・国際交流拠点の役割を担っている。

山陰地域におけるクルーズ船の一大受入拠点(2019年:53回)となっている他、港内及び港周辺には、みなとオアシス境港やセーリングの世界選手権大会の会場にも選ばれたマリーナ、離島航路へのターミナル、多様な観光地が立地する等、山陰地域を代表する賑わい拠点としての役割も担っている。

令和3年6月21日
 交通政策審議会
 第82回港湾分科会
 資料1-2



資料; 国土地理院 (<http://maps.gsi.go.jp/>) 白地図より作成

日本海側拠点港(2011年選定)
 国際海上コンテナ、外航クルーズ、原木
リサイクルポート(2011年指定)
 中国地方では境港、宇部港、徳山下松港の3港

各数値は2019年実績

境港が担う役割(地域産業を支える物流拠点、静脈物流の拠点) 国土交通省

境港は、製紙会社や合板メーカー等の企業活動を支えている他、鳥取県中部から島根県出雲地域までの広範にわたって小口のコンテナ貨物も多く利用されている等、地域産業を支える物流拠点としての役割を担っている。

近年は、境港での燃料調達を前提としてバイオマス発電事業者2者の進出が計画される等、新たな産業立地にも繋がっている。境港背後には、RPF燃料や廃タイヤチップなどの廃棄物エネルギー燃料製造や木くずチップ製造、バイオマス燃料製造などのリサイクル産業が集積しており、2011年にはリサイクルポートに指定される等、静脈物流の拠点としての役割を担っている。

【周辺企業の状況】



【広域の境港利用状況(コンテナ)】

[各地域発着コンテナ貨物の境港利用割合]

	島根県 出雲	島根県 松江	鳥取県 西部	鳥取県 中部
輸出	1%	29%	83%	17%
輸入	10%	64%	74%	40%

【取扱貨物の例】

輸出

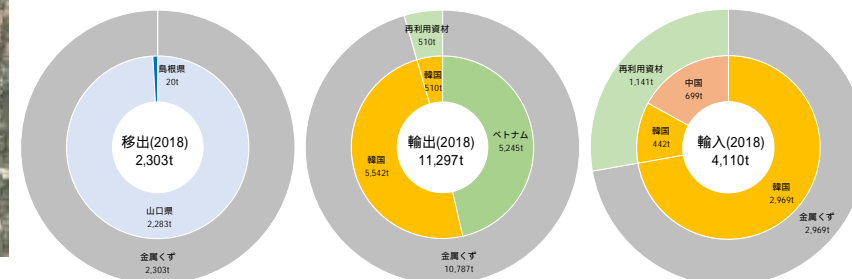
自動車部品、農機具、圧着端子、冷凍魚、ピアノ等

輸入

鋳物、クレー、電子部品、建材、コーヒー豆 等

コンテナ貨物流動調査(H30)より中国地方整備局港湾計画課作成

【リサイクル産業の境港利用状況】



水産王国 境港

境港は古くから漁業の町として栄えてきており、2019年の水揚げ量は8.5万トン(全国第7位)、水揚金額は211億円(全国第5位)。境漁港は、高度衛生管理型市場として、国内のみならず、海外への輸出も視野に入れた漁港として2016年から新築・改修工事を実施中(2023年完成予定)。

【境漁港の概要】

- 境港は、隠岐島周辺の好漁場に近く、また島根半島による天然の防波堤に恵まれ、古くから漁業の町として栄えてきた。
- 主な魚種は、あじ、さば、いわし類、ぶり類、べにずわいがに、くろまぐろ等。
- 2019年は、さば、まいわしの水揚げが減少したことが影響し、水揚げ量は8.5万トン(2018年は11.5万トン)で、全国7位。



全国漁港の水揚げ量 (R円)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁港	銚子	釧路	焼津	長崎	石巻	枕崎	境港	松浦	八戸	気仙沼
水揚げ量(千トン)	280	172	172	100	100	87	85	72	66	65

	さば	あじ	うるめいわし	ぶり類	べにずわい	かたくちいわし	まいわし	その他
水揚げ量(千トン)	20.5	14.9	14.8	12.1	4.8	2.8	2.1	13.3

境港の水揚げ量及び水揚金額の推移 (属地)

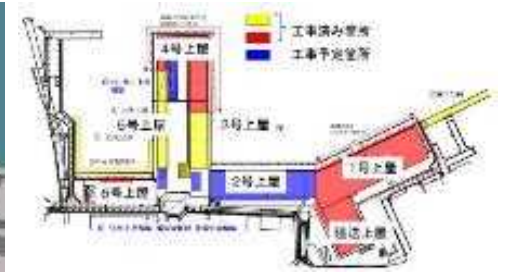
区分	年次	昭和63年	平成5年	8	10	15	20	25	26	27	28	29	30	令和元年
水揚げ量(千トン)		628	691	259	201	122	107	136	116	126	107	128	115	85
水揚金額(億円)		302	304	253	210	185	208	178	193	206	208	205	218	211

「鳥取県農林水産業の概要(2020年6月、鳥取県農林水産部)」より抜粋

高度衛生管理型市場への新築・改修

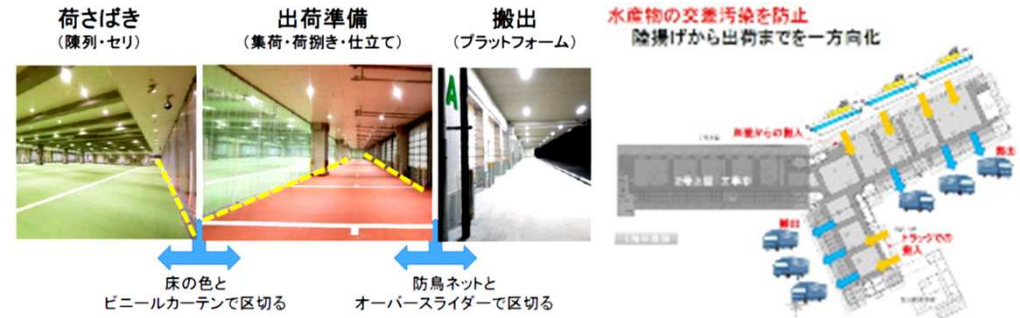
概要

高度衛生管理型市場として、国内のみならず、海外への輸出も視野に入れた漁港として2016年から新築・改修工事を実施しているところ(2023年完成予定)。



高度衛生管理の内容

- ゾーニングが明確化され迅速な魚介類の取扱が可能
- 人、車両の入場を管理
- 水産物の鮮度を落とさないために、市場全域で清浄な水、氷、低温室、冷蔵庫が利用可能
- 衛生的な作業レベルの向上のため出入り口、作業エリアの映像を記録等



鳥取県HP (<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1165344/Japanese.pdf>)より抜粋

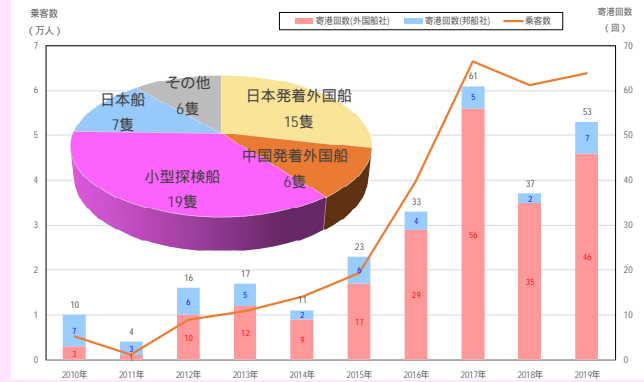
境港が担う役割(交流・賑わいの拠点)

境港周辺には、クルーズの受入拠点となる「境夢みなとターミナル(2020年4月供用)」や「みなとオアシス境港」の各構成施設の他、離島航路や公共マリーナも立地しており、境港は交流・賑わいの拠点としての役割を担っている。



クルーズ

- 2020年4月、境夢みなとターミナル供用。
- 賑わいづくりの一環で、ターミナルの展望デッキをピアガーデンとして活用する取組等を検討中。



離島航路

- 近年観光客数が増加傾向にある隠岐の島への高速船・フェリーが就航。

フェリーらしま



高速船レインボージェット



マリーナ

- 近年利用客数は増加傾向。
- 2019レーザー級世界選手権大会開催。



みなとオアシス境港

- 2020年Sea級グルメ全国大会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症に伴い中止。2021年開催に向けて調整中。



みなとさかい交流館



境港おさかなロード大量祭



夢みなとタワー



Sea級グルメ
白いかあげそば

境港の港湾計画改訂に向けた考え方(まとめ)

1. 現在境港が担っている役割

- 境港は、合板や製紙等の地域の主力産業の海上物流拠点及び山陰のコンテナ物流拠点としての役割を担うとともに、金属くずや廃プラ等の静脈物流拠点としての役割を担っている。
- 境港は山陰一のクルーズ船寄港回数を誇るとともに、港内及びその周辺には多様なイベント等の礎として活用されているみなとオアシス、離島航路、マリーナ施設、多様な観光資源を有しており、山陰随一の賑わい拠点としての役割も担っている。

2. 今後の国・背後地域の発展・振興に向けた境港の戦略

地域の主力産業たる農林水産業に関する合板生産・輸出の強化及び農水産品輸出の促進に貢献するとともに、山陰立地企業の基礎物流インフラとしての役割を果たすため、一般貨物の海上輸送機能及び内貿ユニットロード(コンテナ、RORO)の取扱機能の強化を図る。

恵み豊かな自然環境の享受と将来世代への継承に寄与するため、再生可能エネルギー燃料及び循環資源の効率的な海上輸送、並びに環境負荷の少ないRORO輸送の実現を図る。

観光立国・観光立県の実現に寄与するため、世界最大級のクルーズ船入港への対応、国際フェリーの再就航に向けた取組、みなとを核とした賑わいづくりの伸展を図る。

- 地域の防災拠点として住民生活や企業活動の継続に貢献するため、激甚化する災害に対応した港湾の更なる強靱化を図る。

3. 境港の現状の課題とその対応方策

木材や水産加工品の輸出促進、新規需要に対応するため、既設の港湾施設の再編及び新規岸壁を計画する。

災害時に運用が想定される緊急物資輸送に対応するために岸壁の耐震強化を行う。

地域の人流や賑わいの拠点となるクルーズターミナルやマリーナ施設にて、必要とされる機能の見直しを図る。

境港港湾計画改訂(案)の概要

【凡例】

- 公共岸壁(既設)
- 物資補給岸壁
- 臨港道路(既設)
- その他道路(既設)
- 既定計画
- 今回計画
- 主要施設等



新規需要への対応、埠頭再編

- 新規岸壁(-12)230m (幹線)
- 土地造成

再生可能エネルギーの導入推進、資源循環の維持、農林水産品の輸出拡大

防災機能の強化

- 10m岸壁:耐震化(緊急)

災害時における船舶による緊急物資輸送の確保

原木取扱機能の集約・強化
取扱岸壁のシフト

地域の主力産業たる合板製造の物流効率化

大型クルーズ船寄港への対応
(-10)370m → (-10.5)430m

最大級の大型クルーズ船及びRORO船の利用に対応

マリーナ機能の強化
土地造成、防波堤形状の変更等

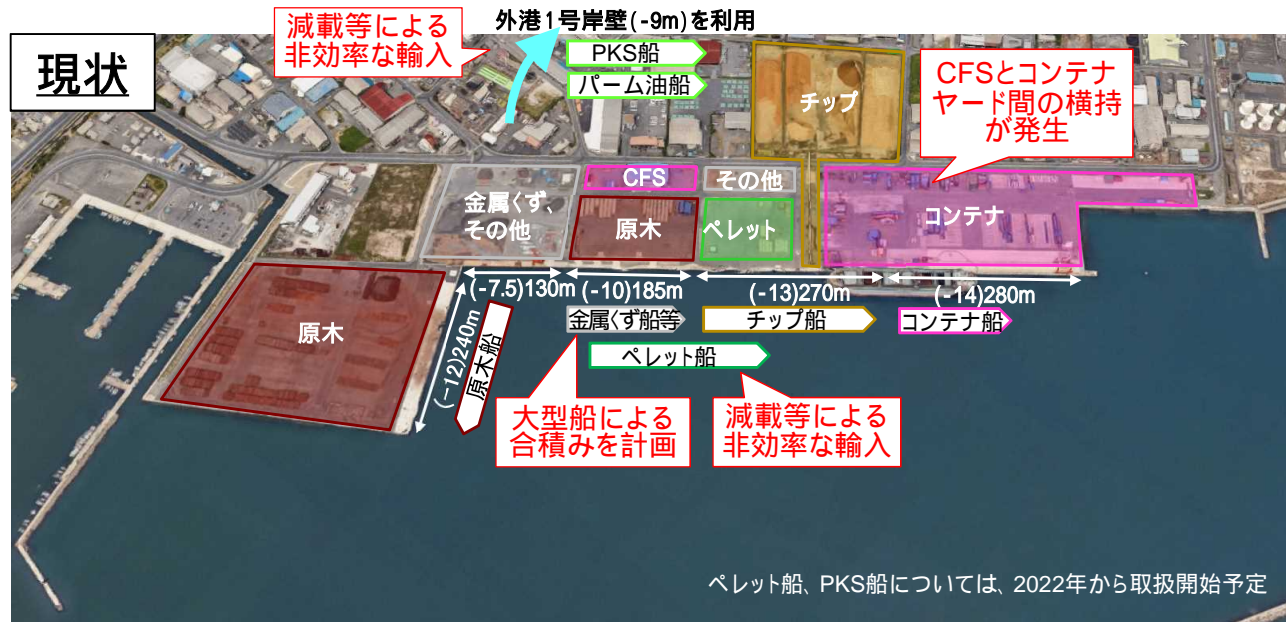
水辺を核とした更なる賑わいづくりの推進

原木取扱機能の強化
(-9)165m+(-7.5)130m → (-9)250m

地域の主力産業たる合板製造の物流効率化

主な計画内容(新規需要への対応、埠頭再編)

新規バイオマス燃料の取扱及び金属くずの大型船による複数港連携での遠隔地への輸出に対応するとともに、コンテナの取扱を効率化させるため、新規岸壁(-12m)1バース及び埠頭再編を計画する。



品目	将来の状況変化
バイオマス	<ul style="list-style-type: none"> 2022年バイオマス発電所2基稼働予定
コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> 2030年頃、中国航路大型化(1千TEU 1.7千TEU積み(必要岸壁水深12m))
原木	<ul style="list-style-type: none"> 2031年頃、昭和北地区での取扱を中野地区に集約予定
金属くず	<ul style="list-style-type: none"> 段階的に輸血量増加の見込み(1.3 10万トン) 複数港連携による遠隔地への効率的な輸出のため船舶大型化予定(5千DWT 3万DWT)
その他	<ul style="list-style-type: none"> 2031年頃、昭和北地区での取扱を昭和南地区に集約予定



○港湾整備について

- (意見) 外港昭和南地区において、来年度からバイオマス発電所関連貨物への対応が必要となってくる。境港が発展する良い材料だとは思いますが、発電所の公害問題や荷役形態に係るリスクアセスメントについて検討した方がよい。
- (回答) 公害問題について、バイオマス発電所の2箇所の稼働に伴う大気質への影響等も加味して環境影響評価を行っており、影響は軽微であるとの結果になっている。
- リスクアセスメントについて、バイオマス発電所関連貨物であるペレットは専用容器による荷役を予定しており、ふ頭用地内に常時存置されることになるため、津波等による専用容器の流出や緊急物資の受け入れに支障となることが想定されるが、緊急時における専用容器の避難先を予め定めておく等、運用に係る利用者との協議・調整を適切に行う。

○土地利用計画の変更について

- (意見) 昭和北地区において、ふ頭用地を港湾関連用地に変更するが、この意図を教えて欲しい。
- (回答) ふ頭用地内には公共上屋4棟が建設されているが、老朽化が著しく立替・更新の時期が控えている。倉庫整備には一定の投資が必要となるが、例えば民間による倉庫の建設であったり、用地の民間への貸し出しや売り払い等も視野に入れ、今回、用途変更を行うものである。

○境港の賑わいについて

- (意見) 竹内南地区において、ベイエリアとして皆が使えるアミューズメントな地域として管理していただきたい。
- (回答) 昨年開通したサイクリングロードとの連携や境港市内方面との二次交通との連携などの取組を進めている。引き続き、関係機関と連携し、できることから竹内南地区を核として賑わいづくりの取組を進める。

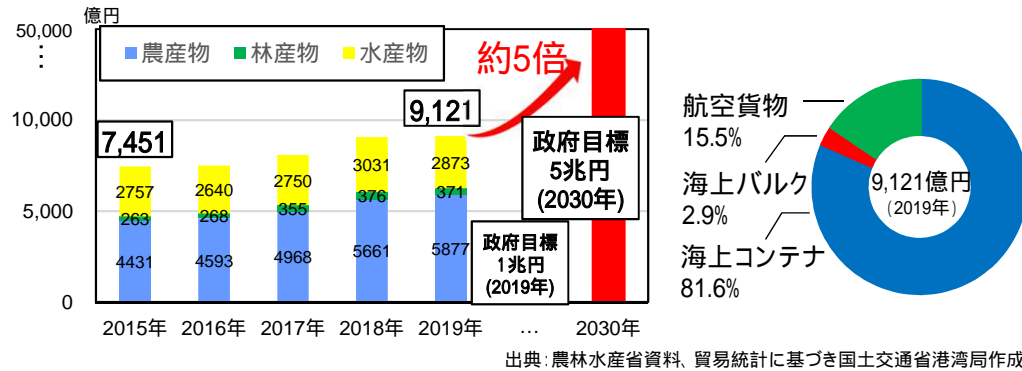
農林水産物・食品の輸出促進に向けた方針

「食料・農業・農村基本計画」(令和2年3月31日閣議決定)等において、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする目標が設定されたことを受け、産地が取り組む大ロット・高品質・効率的な輸出を後押しするため、産地と港湾の連携を促進するとともに、港湾やその近傍において、現状では不足している輸出機能を強化することが必要。

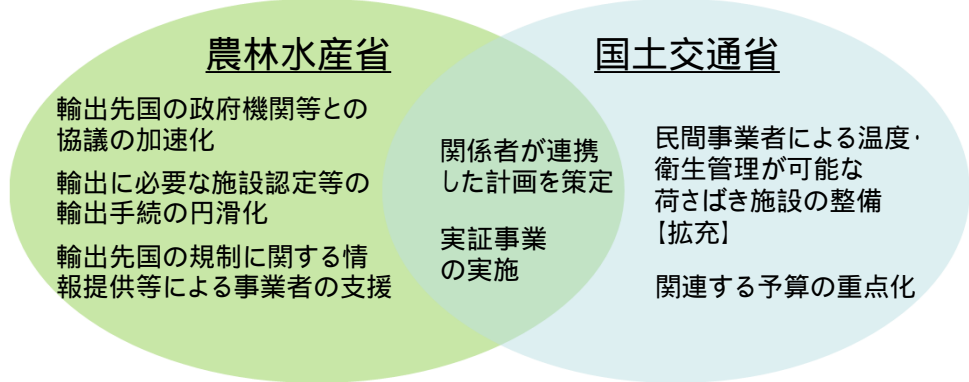
国土交通省は、農林水産省と連携し、農林水産物・食品の輸出産地による海外への直航サービスを活用した輸出を促進するための港湾である「特定農林水産物・食品輸出促進港湾」(通称:「産直港湾」)を支援。境港でも水産物輸出に向けた取り組み支援のため地元ニーズの掘り起こしや、支援策等(冷凍コンテナ等のリーファー電源の拡充等)を検討。

中国地方における多様な木材販路開拓への機運の高まりを受けて、中国地方からの林産物輸出の促進に向けた情報共有・情報発信を目的として、「中国地方木材輸出促進検討会」を設置。

< 農林水産物・食品の輸出額の推移と輸出手段別割合 >



< 農林水産省の取組と国土交通省が連携して推進する取組 >



背景

- 農林水産物・食品の輸出拡大に向けた政府全体の動き
(輸出目標: 2025年2兆円・2030年5兆円、農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略)
- 中国地方における多様な木材販路開拓への機運の高まり
(中国地域港湾の中長期構想における林産物輸出の位置づけ、鳥取港や境港の港湾計画改訂)
- 中国地方からの木材輸出の潜在性
(中国地方の素材生産量の全国シェアは約8%、重量ベースでの中国地方からの木材輸出の全国シェアは約5%、原木は約1%)

目的

中国地方からの木材輸出の促進に向けた情報共有・情報発信

スケジュール

2021年5月25日: 第1回検討会開催(WEB会議にて開催)
以降、定期的に開催予定

検討事項

- 各主体より情報共有を行うとともに、関係企業等へ情報発信の手法について検討
- 各地域における森林蓄積の状況や木材需給の見通し
 - 各地域・各港における木材輸出の動向・課題(企業の動向、要望等)
 - 各港における木材輸出に係る港湾施設の利用状況(港湾施設(岸壁、野積み場)、重機、荷役機械、等)
 - 各主体における木材輸出の促進に向けた取組や支援策等

境港における農林水産品の輸出促進への取組

今回の計画改訂では、地域の主力産業である農林水産関係産業の活性化、輸出促進に向けた取組の促進を重視。木材産業については、分散する原木輸移入の集約による原料調達効率化、合板等の製品の輸出促進に向けた埠頭用地の拡張、施設再編を計画。水産業については、土地利用を見直し、低温倉庫も含めた総合物流ターミナルの整備を検討しており、別途整備されている高度衛生管理型市場とも連携して、水産品の輸出に係る物流機能強化を計画。

高度衛生管理型市場 (2023年完成予定)

- 高度な衛生管理体制の確保は、輸出先各国の規制等への対応に必要であるとともに、輸出する水産品の品質確保や更には取引単価の向上にも資する。



総合物流ターミナル整備を見据えた土地利用の変更

総合物流ターミナル(イメージ)



農林水産品の輸出に不可欠な物流機能の確保



境港の目指す姿と基本方針との適合

【目指す姿(前回改訂時)】

山陰地域における拠点港湾として、環日本海交流の促進及び交通ネットワークの充実を背景に、更なる交流の拡大に資するよう港湾機能の充実を図る。
また、地域住民の暮らしを支え、日本海の自然と共生し、安全で親しみやすい港湾空間の形成を図る。

交通ネットワークの充実を背景にした地域の産業振興に寄与することを目指す境港

東アジアに近い地理的優位性を活かした環日本海交流の拠点としての境港暮らしの安全と潤いのある空間形成を目指す境港

【目指す姿(今回計画)】

北東アジア諸地域とのゲートウェイ

物流・産業
北東アジアとのゲートウェイとなる中国地方日本海側拠点港湾

人流・賑わい
魅力ある山陰観光と連携した交流拠点港湾

安全・安心
国土の強靱化を支える境港

環境
豊かな自然環境と共存し、環境関連産業を支える港湾

【港湾の基本方針】

港湾の開発、利用及び保全の方向に関する事項

我が国の産業と国民生活を支える海上輸送網の構築と物流空間の形成

我が国及び地域の基幹産業・地場産業を維持し、民間投資及び雇用を誘発するための港湾機能の強化並びに内陸部との連携強化
資源・エネルギー・食糧の受入拠点となる港湾の機能強化及び環境への負荷が少ないエネルギーの受入拠点の形成

柔軟性を持ったストックマネジメントと港湾間の連携の推進

国・港湾管理者・民間企業が適切に連携し、港湾間の機能分担を踏まえた連携を図った上で、既存施設や用地等の効率的・弾力的な利用、機能の集約化・複合化等による港湾空間の再編の促進

観光立国と社会の持続的発展を支える港湾機能の強化と港湾空間の利活用

東アジア発着クルーズ及び日本発着クルーズの寄港需要に応じたクルーズ船受入環境の整備

国民の安全・安心を支える港湾機能・海上輸送機能の確保

災害時における緊急物資や、国際海上コンテナをはじめとする幹線貨物の一連の輸送ルート構築及び航路等の啓開体制の強化

【今回計画での主な対応】

＜物流＞

・地域の主力産業である農林水産品の輸出促進、金属くずの輸出拡大、新規バイオマス燃料の輸入に向けた新規岸壁と埠頭再編

・民間投資と連携した原木輸移入の効率化

＜クルーズ船＞

・大型クルーズ船の受け入れを可能とする岸壁の機能強化

＜安心・安全＞

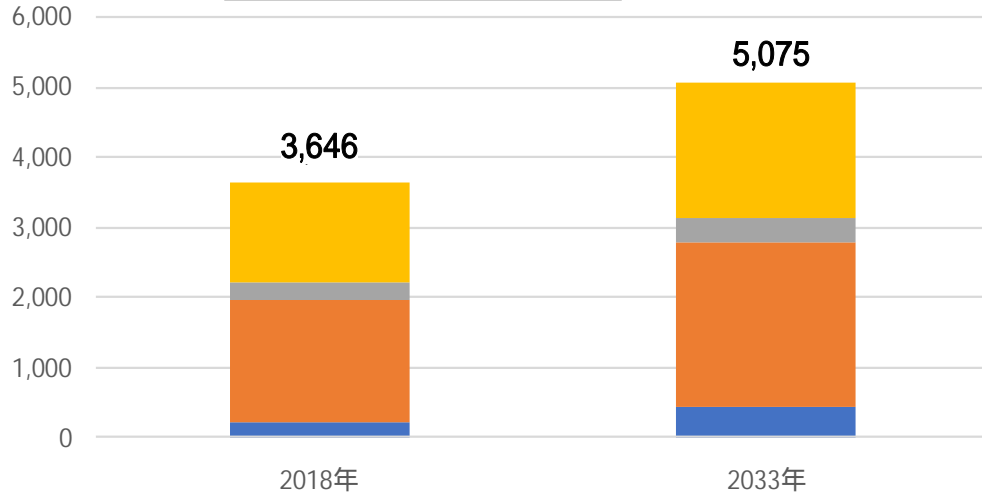
・緊急物資や幹線貨物の輸送を担う耐震強化岸壁の位置付け

計画貨物量の設定(全体)

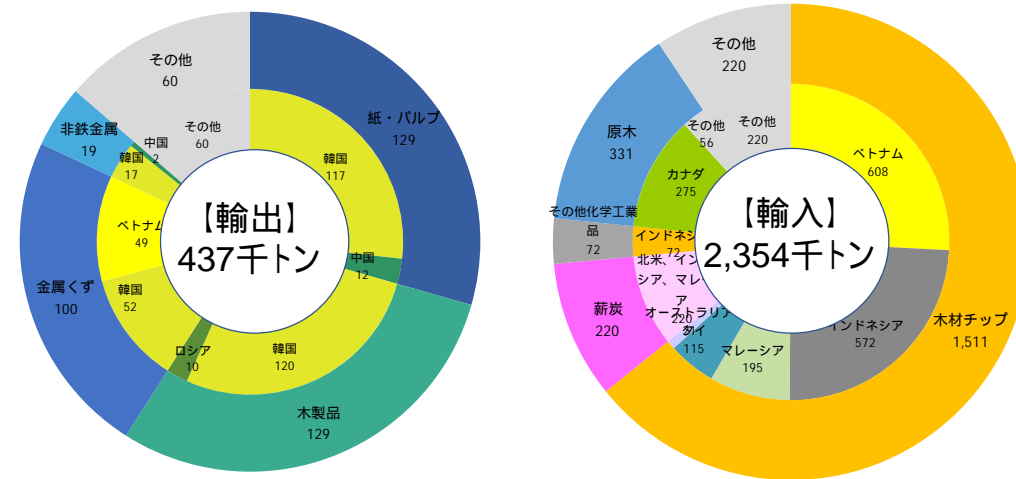
境港背後で計画されている2つの新規バイオマス発電事業開始に伴い、燃料(PKS、木質ペレット)の新たな取扱が見込まれる。境港の太宗貨物である木材チップ、石油製品、原木等の取扱は今後も堅調に推移していくものと見込まれる。

計画貨物量

(千トン)

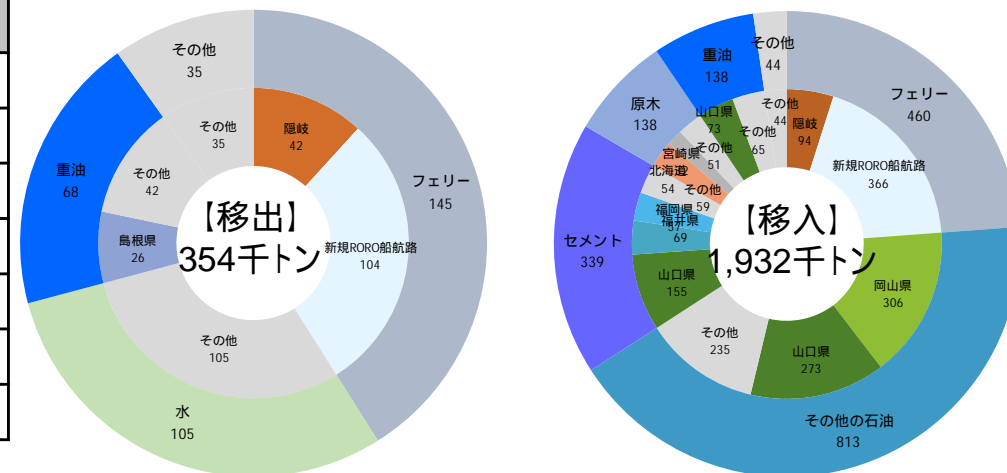


計画貨物量の内訳(令和10年代後半)



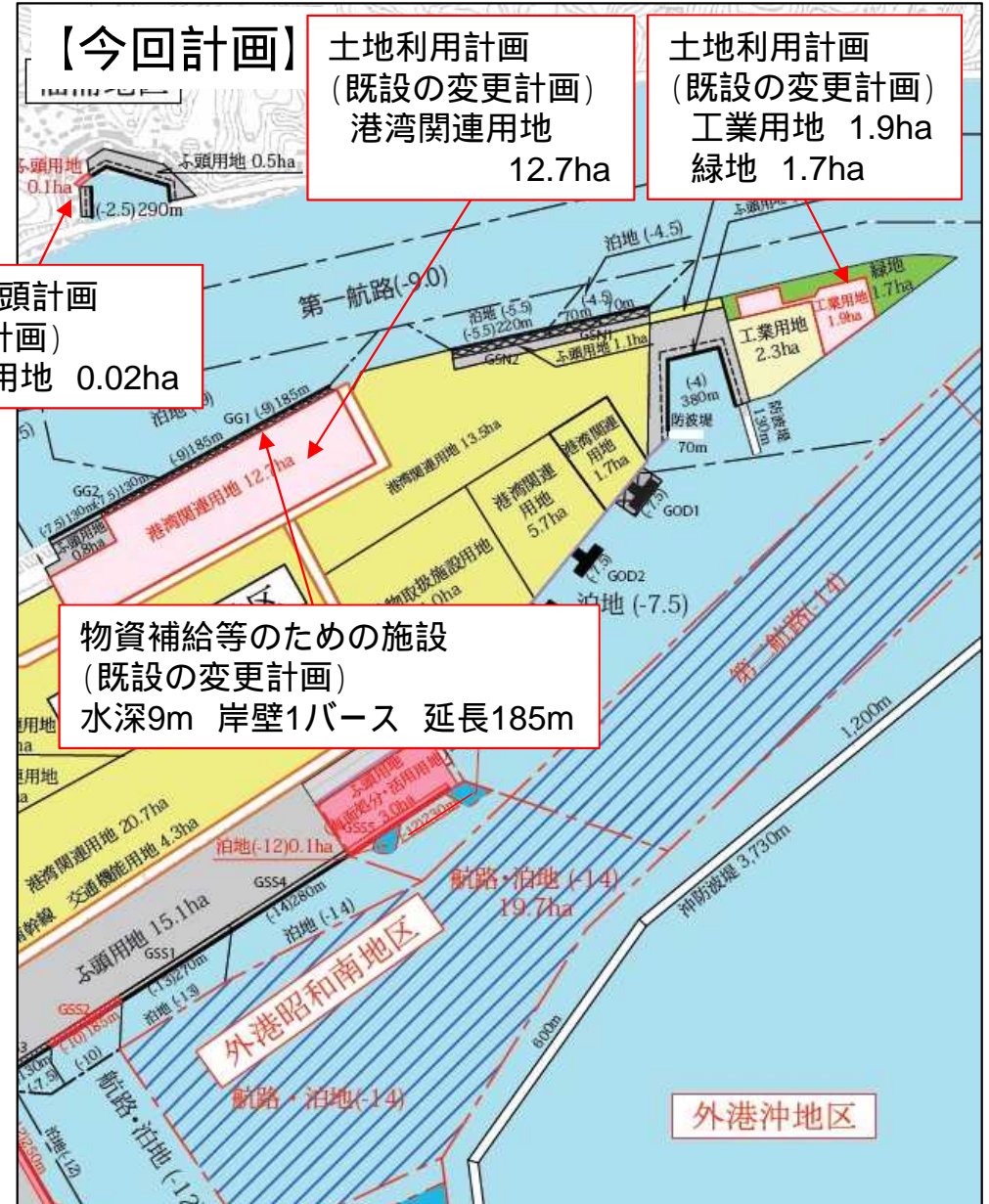
増減の主な要因

品目	2019年	2033年	根拠
木材チップ(輸入)	1,460千t	1,511千t	新規バイオマス発電所の燃料需要
薪炭(輸入)	0t	220千t	新規バイオマス発電所の燃料需要
その他化学工業品(輸入)	0t	72千t	新規バイオマス発電所の燃料需要
金属くず(輸出)	11千t	100千t	取扱企業の事業拡大計画
原木(輸移入)	367千t	477千t	取扱企業の事業拡大(貯木場の埋立)
木製品(輸出)	26千t	129千t	取扱企業の事業拡大(貯木場の埋立)
フェリー(RORO含む)	167千t	614千t	定期航路の誘致継続



港湾計画内容[外港昭和北地区周辺]

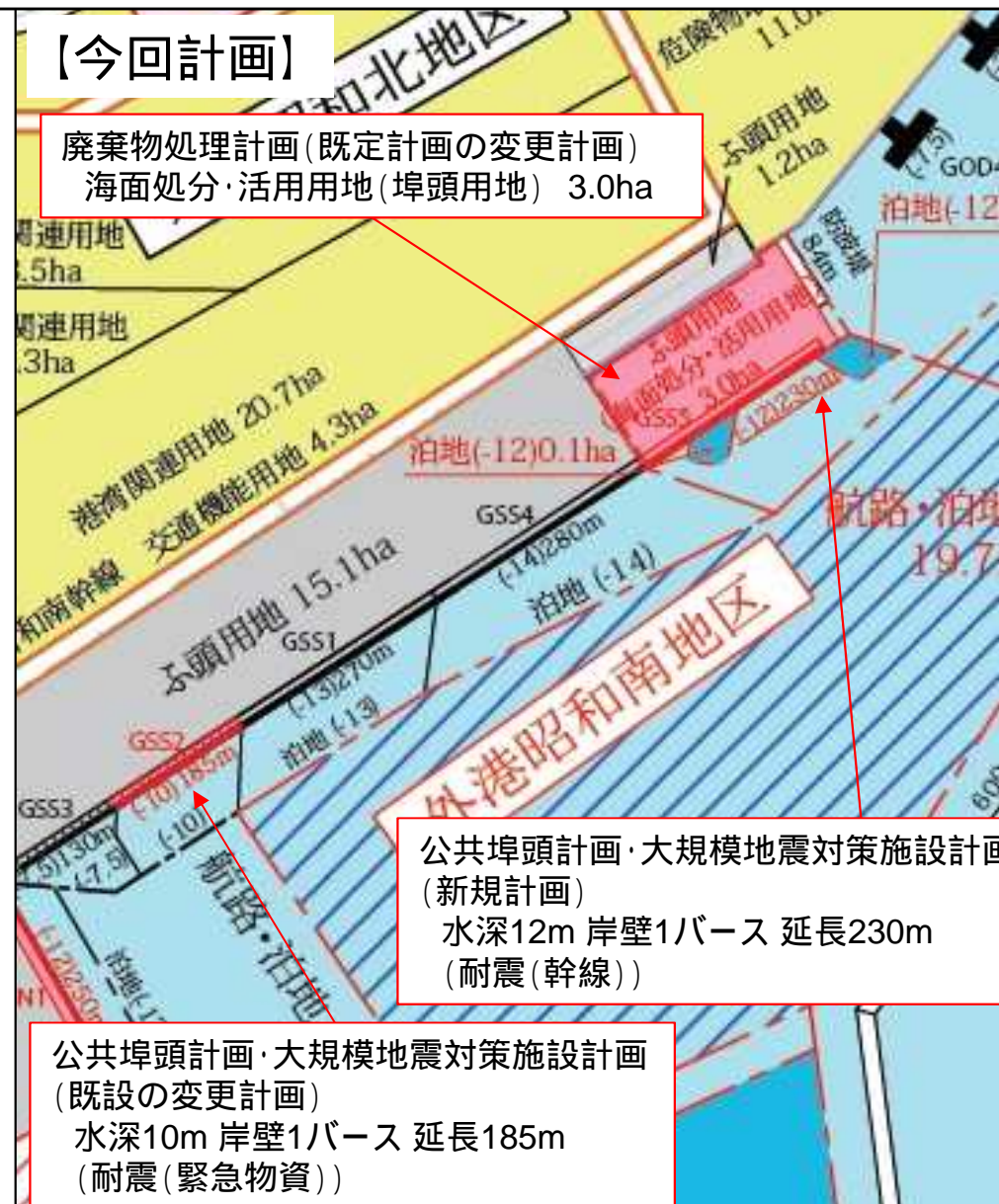
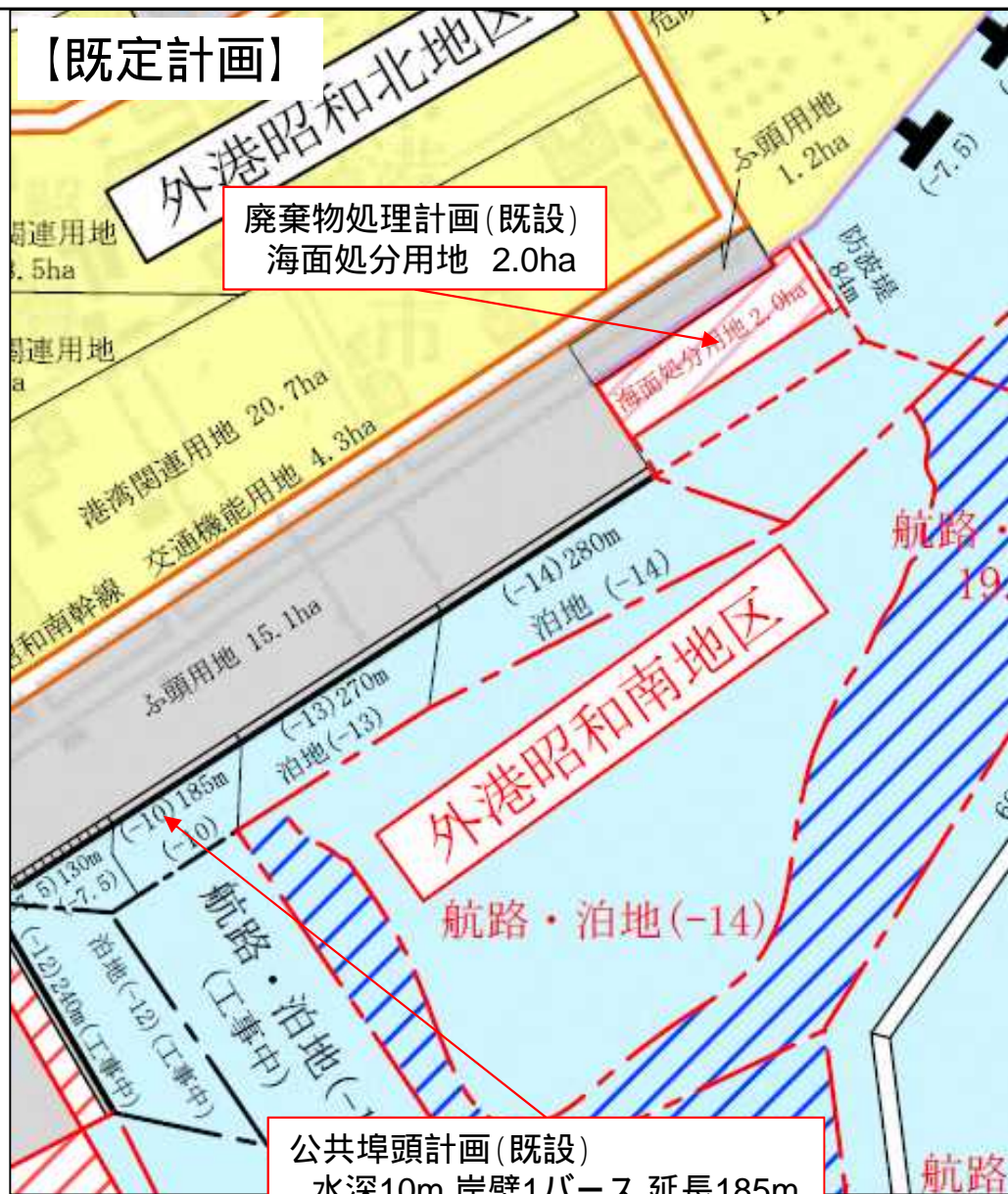
外港昭和北地区は、効率的な港湾利用のため、物資補給岸壁の位置づけや、土地利用の見直しを行う。



港湾計画内容[外港昭和南地区周辺]

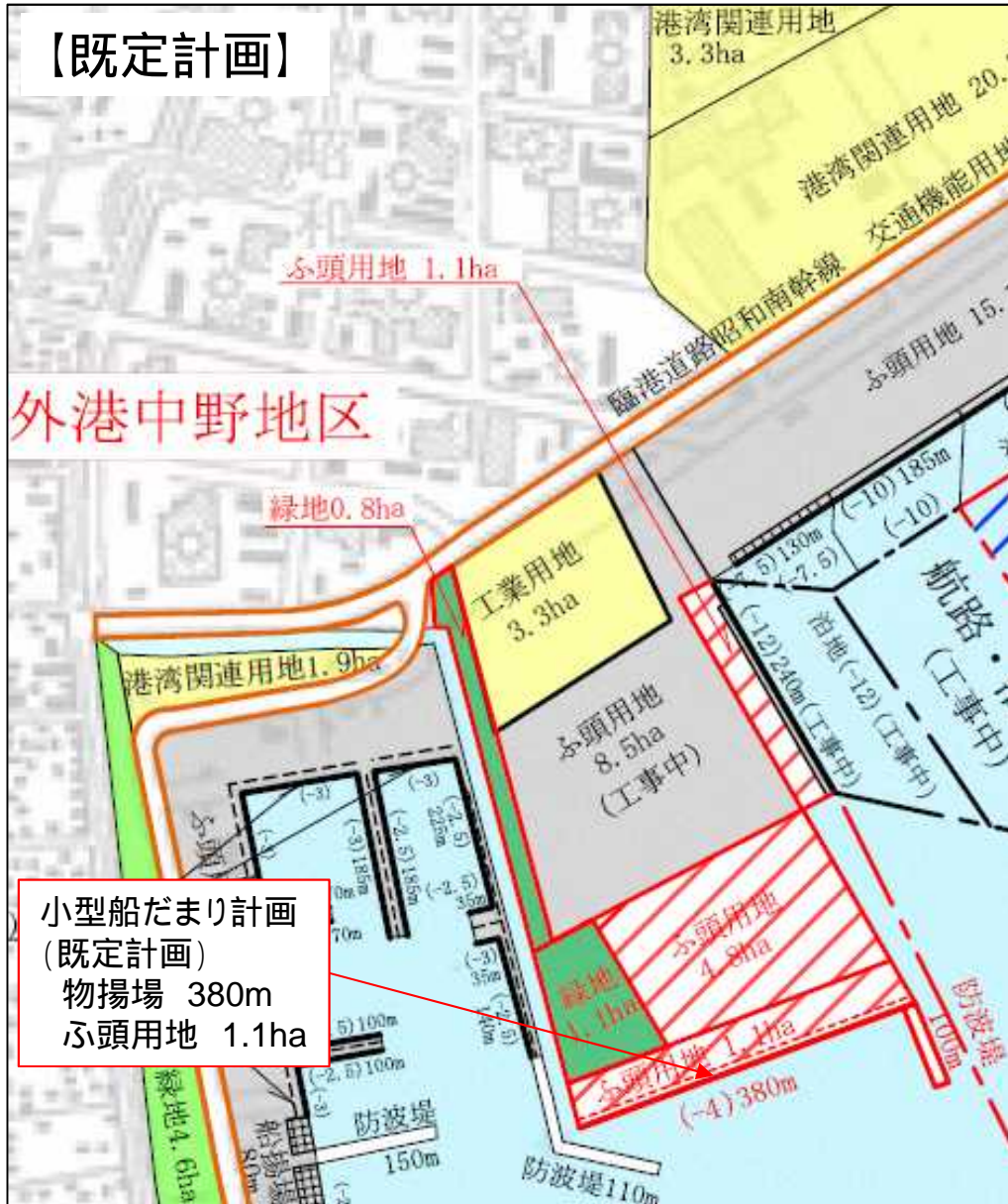
外港昭和南地区は、地域産業を支える物流拠点として、新規バイオマス燃料や金属くずの大型船による輸送等に対応する観点から、埠頭再編を行い、新規岸壁(水深12m)の位置づけを行う。

大型船による緊急物資輸送を可能とするため、既設の耐震強化岸壁に隣接する岸壁(水深10m)の耐震強化を位置づける。



港湾計画内容[外港中野地区周辺]

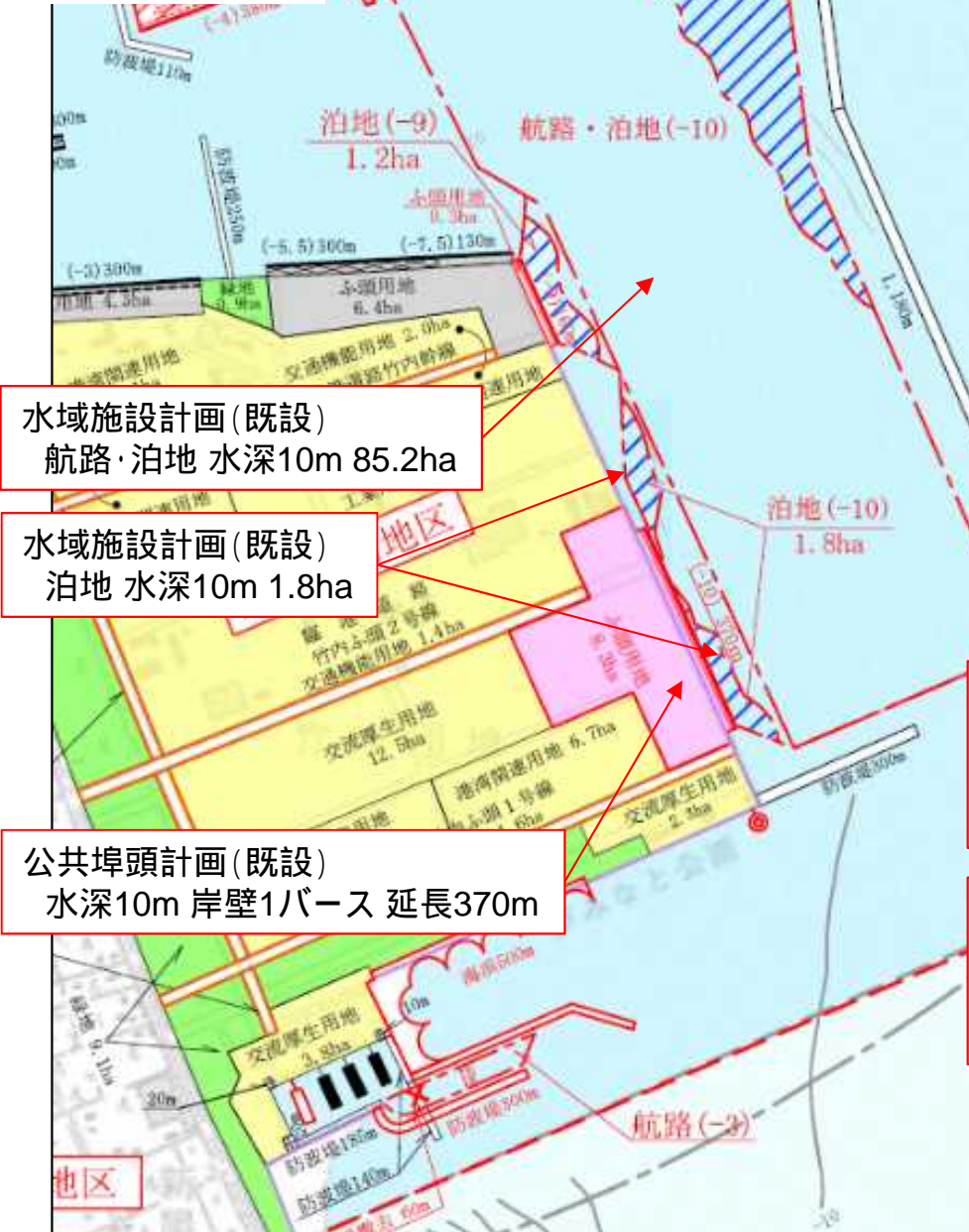
外港中野地区は、地域の主力産業たる合板製造の物流効率化に資する観点から計画の見直し及び公共埠頭計画(将来構想)の位置づけを行う。



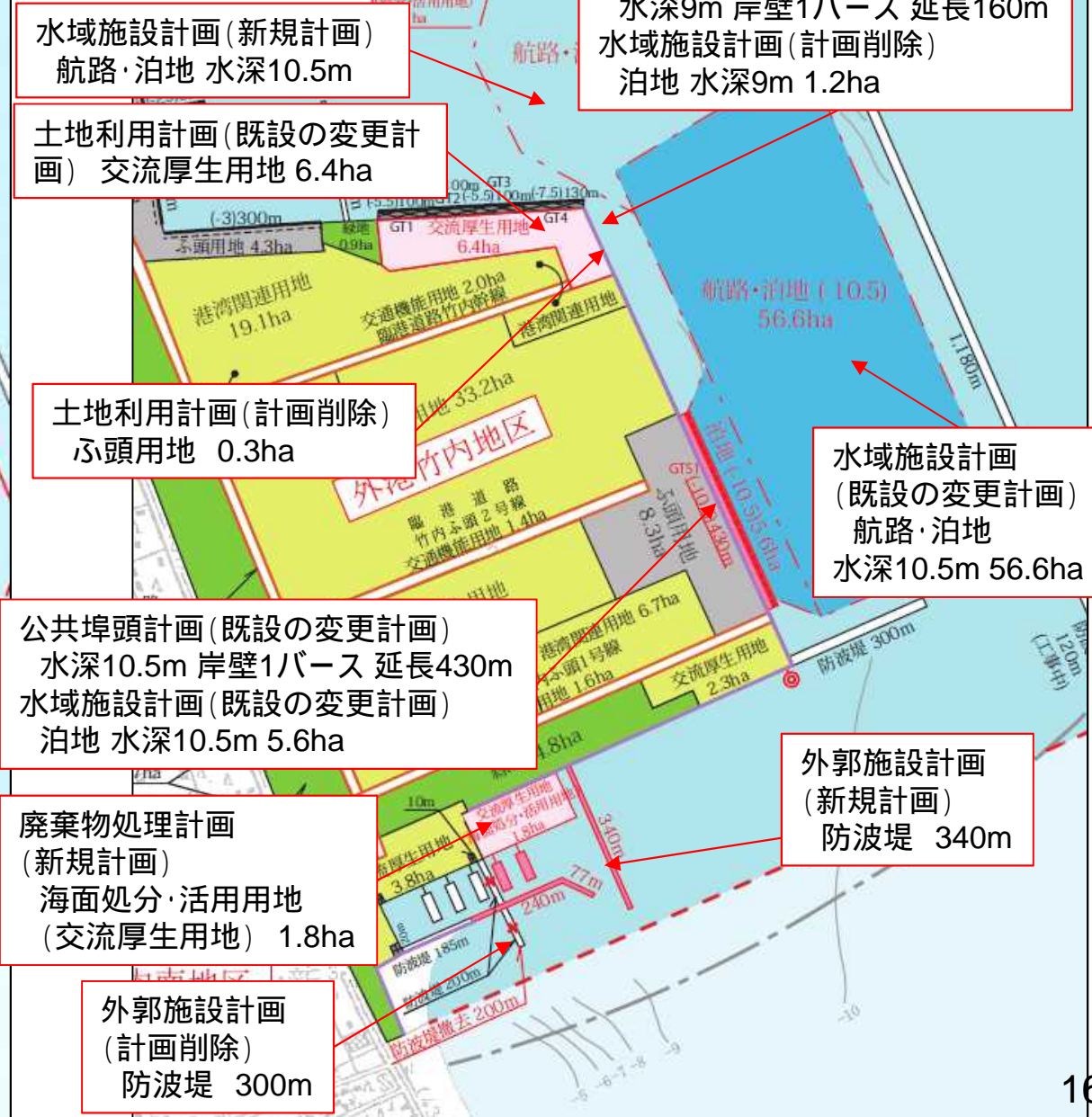
港湾計画内容[外港竹内南地区周辺]

外港竹内南地区は、交流・賑わいの拠点として、マリーナの拡張や大型クルーズ船の寄港に対応した計画変更を行う。

【既定計画】



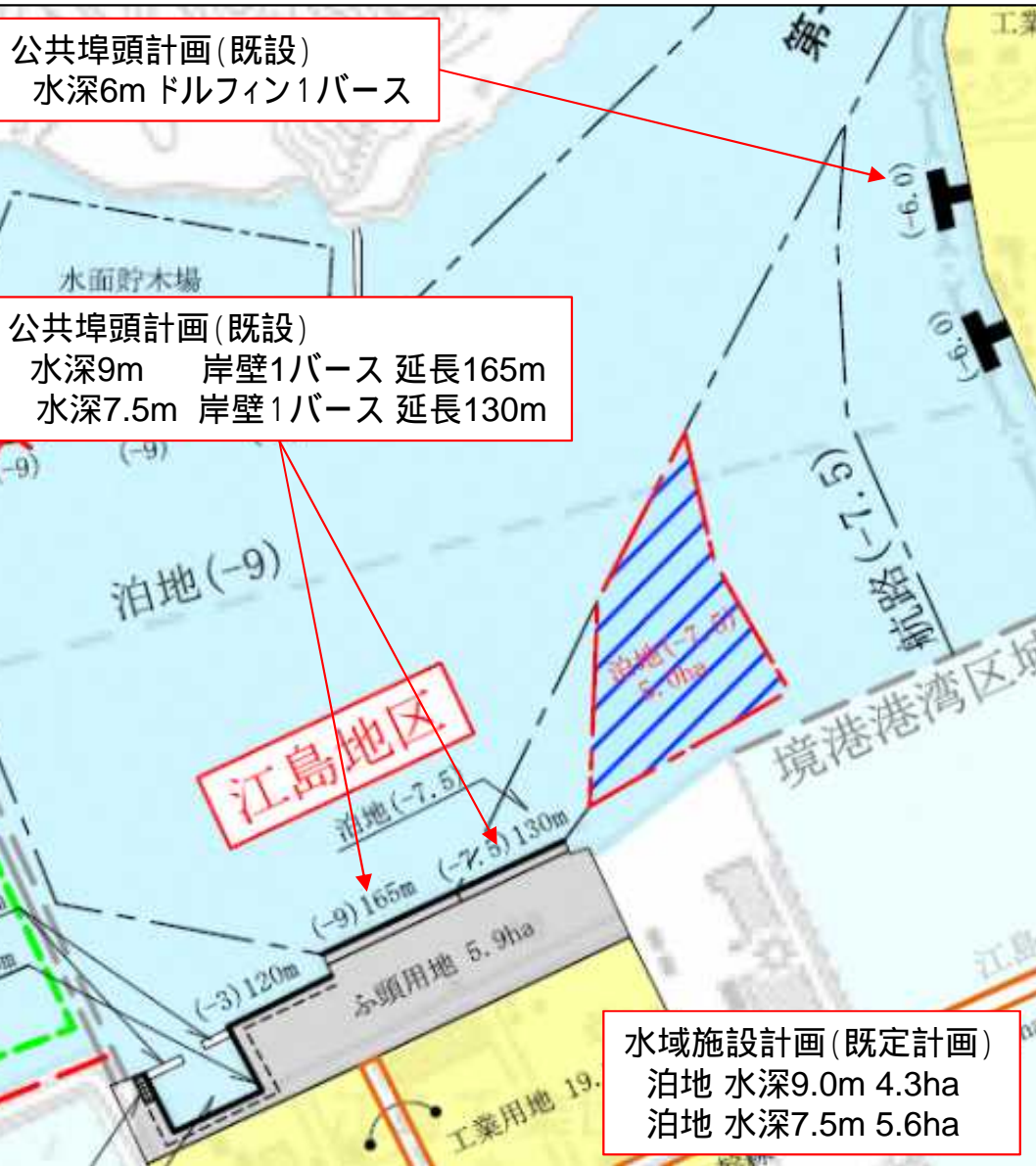
【今回計画】



港湾計画内容[江島地区周辺]

江島地区は、既設岸壁の増深を行い、積載量を増加可能とし、原木輸送の効率化を図る。

【既定計画】



【今回計画】

